



第 16 号

岩江中だより

発行日：令和6年3月8日（金）
文責：三春町立岩江中学校長
電話：0247-62-8290
FAX：0247-62-8380
Email：iwae-j@fcs.ed.jp

学校経営のテーマ『変えてはならないものを守るために、変えるべきものを変え続ける』

ご意見ありがとうございました。教育活動の充実に繋がります。

生徒・保護者・学校運営協議会のみなさまから、学校の教育活動について貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。生徒たちの成長のために、教職員の反省も併せて今後の学校経営に反映させ、教育活動を一層充実させてまいります。なお、自由記述にていただきました個別の意見につきましても、十分に吟味し、教育活動に反映させてまいります。これからもご理解・ご協力よろしくお願いたします。

令和5年度 学校評価アンケートに基づく自己評価

中項目	小項目	小項目 評価	中項目 評価	評価結果の考察	課題改善に向けて
教育課程	①教育目標の設定	4	4	〇コロナ禍の中での学校生活や人間関係などに不安を抱えている生徒に寄り添い、他者との関わりを大切にしながら教育活動を進めたことにより、生徒が前向きに学校生活を送ろうとする意欲につながっていると考えられる。 〇生徒の実態を捉え、達成感や自己肯定感が得られる場面を設けたり、行事などを通して所属感を高めることができたことにより、充実した学校生活が送れているのではないかと考える。	〇教育目標「自立」実現のために、キャリア教育をさらに推進させ、「基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応力、キャリアプランニング能力）」を教育活動の中で具体的に捉え、さらに育成していく。 〇保護者、地域との連携を図り、社会に開かれた教育課程を目指す。
	②教育課程の編成	3			
教科指導	①個に応じた指導	3	3	〇生徒の追究意欲を高める課題設定やグループによる学習など、授業におけるさまざまな工夫により生徒が積極的に授業に臨めるようになるなど、学習意欲の向上につながったと考える。 〇授業には意欲的に取り組んでいるが、基礎学力の定着には依然として課題が残る。「わかりにくいことを先生に質問している」という項目の評価が低いことが示しているように、わからないところがそのままになり、確実な学力定着に至っていない状況が見られる。 〇生徒一人ひとりの学習におけるつまずきを把握し、個に応じた支援をいかに充実させるかが課題と考える。	〇学習コンテストを活用し、キャリア教育の視点で、R-PDCAサイクルの家庭学習を充実させるなど、学習習慣の確立を目指す。また、個別の学習にタブレットを有効に活用する。 〇教科センター方式の強みを生かし、教科研究室やオープンスペースを有効活用し、生徒の学習の悩みを気軽に相談できる環境・体制づくりを推進する。 〇校内研修を通して、生徒の学ぶ姿から指導方法の工夫・改善の手だてを共有したり、課題づくりの方法を共有したりして授業力向上に努める。
	②評価	4			
道徳教育	①心の育成	4	4	〇道徳の授業では、自分で考えたり、他者と意見を伝えあったりするなど議論の時間を充実させることにより、自分事として捉えられていた。 〇全校ボランティアや福祉体験などの体験的な活動を実施し、道徳の実践力を高めることができた。	〇道徳教育推進教師を中心として、ローテーション道徳など多様な道徳の授業の在り方について研修を行い、さらに改善に努める。 〇議論する道徳のさらなる実践のために、学級力を向上させ、一人ひとりが安心して発言したり、認められたりする集団づくりを努める。
	②議論する道徳	4			
特別活動	①魅力ある学校行事	4	4	〇感染症対策はしっかりと行いつつ、生徒の活動を保障するよう工夫しながら行事を行った。生徒は積極的に行事に取り組むことができた。 〇各種行事等における生徒の活躍の場とリーダーの育成、さらには自立にむけての教師の支援のあり方等について、今後も教員間で共通理解を図り実践する必要がある。	〇生徒の主体的な活動と活躍の場を設定し、成功体験に結びつくような行事を計画するためにも、行事の目的や教職員の役割分担など綿密に計画し、子どもの成長を促す視点で捉え直す。 〇子どもに身につけさせたい力を重点化するために、学校行事を精選し、総合的に教育課程のスリム化を進める。
	②主体的活動	4			
	③進路指導	4			
特別支援教育	①インクルーシブ教育	4	4	〇特別支援コーディネーターを中心に、組織的な支援体制構築のために、学級担任、介助員、スクールカウンセラー、養護教諭、授業担当者などが情報を常に共有するなど連携を密にした。	〇次年度も特別支援学級は全ての学年に所属することになる。さらにインクルーシブ教育が充実するよう支援体制づくりを進める。 〇特別な配慮を要する生徒への指導の在り方や発達障がい等への理解を深める研修会を開催する。また、特別支援教育委員会の充実を図る。
	②校内の支援体制	4			
	③個別の支援計画	4			
生徒指導	①組織的な生徒指導	4	4	〇毎週の生徒指導委員会の開催により、情報を共有するとともに、組織としての対応を協議し、実態に応じた指導をすることができた。 〇スクールカウンセラーとの連携を図り、個に応じた支援体制を構築し対応することができた。 〇携帯・スマホ、インターネット、SNS等については、安全教室を始め、学年懇談会や他の集会等でも積極的に話題として取り上げ、指導に力を入れてきた。	〇「自立」を促す積極的な生徒指導を教職員の共通理解のもとと継続していく。 〇ガイダンスの機能を生かし、全校生徒と教職員が共通理解のもとと学校生活がよりよくなるようにする。 〇相談しやすい環境作りをする。学校だより等で情報を発信し、地域・家庭に開かれた生徒指導に努める。
	②教育相談・生徒理解	4			
	③安全指導	4			
	④基本的生活習慣	4			
組織運営 情報管理	①学校経営目標・方針	4	4	〇学校だよりやホームページなどで積極的に情報を発信した成果が十分に現れる。 〇教員一人一人が担当する業務が多く、かつ多岐にわたるため負担感が多かったと推測される。また、校務支援システムが十分に機能を果たさず、多忙感の軽減には効果は少なかった。	〇校務分掌の適材適所化を図り、教職員の能力が発揮できる体制を作ることにより力を入れていく。 〇学校教育のデジタル化が進む中で、情報セキュリティの強化、教職員・生徒の情報リテラシーの向上を図る。
	②校務分掌等の連携	3			
	③個人情報保護・管理	4			
研 修	①校内研修	4	4	〇町で推進している教育アドバイザー訪問により、「生徒の学びに寄り添った見取り」についての見識を深め、授業研究においてそのスキルを磨くことができた。また、現職テーマをもとに組織的に授業改善に向けた取り組みを継続している。 〇参加型の研修会やリモート・オンラインの研修会に積極的に参加し、授業力や指導力向上に努めている。	〇自校の課題や今日的課題をふまえた研修の充実により、授業改善につなげていく。ICTの効果的な使用方法について研修機会を増やしていく。 〇現職教育委員会の組織の更なる活性化を図る。 〇今後もリモート研修等、新しい形での研修も積極的に取り入れていく。
	②研修態度	4			
保護者・地域との連携	①学校情報の発信	4	4	〇コロナ禍にあっても学校運営協議会が計画的に開催されており、連携・協働が難しい状況ではあるが、つながりを保つことができていた。様々な教育活動に参画していただいている。 〇ホームページや学校だよりでの日常的な情報発信により、保護者、地域との連携や信頼関係構築に効果が上がっているものと考えられる。	〇コロナ禍の中ではあるが、コミュニティスクールの機能を最大限に発揮し、開かれた学校、開かれた教育課程の実現のためにも、学校運営協議会の改善、地域の教育力・人材活用など、積極的な取り組みを更に進める。 〇PTA活動の方法を工夫することによって、保護者が参加しやすい環境づくりを行う。
	②学校（授業）公開	4			
	③家庭・地域との連携	3			
設備・施設	①設備・施設の利用	4	4	〇営繕・修理の必要な部分が生じている現状ではあるが、随時、町教委に依頼し改善できる部分については改善してもらっている。 〇清掃活動では、良い状況が継続できている。奉仕活動にも積極的に取り組んでいる生徒が多いので自分たちの環境は自分たちでよりよくするという意識づけをしていく。	〇優先事項を吟味し、営繕要望を伝え計画的な環境改善に努める。 〇ICT機器の導入が急速に進んだ中、有効に活用できるよう管理し、運用していく。 〇環境整備のために生徒自らが自分たちの手で環境整備をするというボランティア精神を育てる。
	②教育環境の整備	4			

※項目の評定については、生徒、保護者、学校運営協議会委員、教職員のアンケート結果から判断し評価しています。

※アンケート結果の肯定的意見が概ね80%以上を「4」、60%以上80%未満を「3」、40%以上60%未満を「2」、40%未満を「1」としています。
（「4」：達成されている 「3」：ほぼ達成されている 「2」：あまり達成されていない 「1」：達成されていない）